

2023年度第2回町田市立国際版画美術館運営協議会議事要旨

■日 時：2024年1月31日（水） 午後2時

■会 場：町田市立国際版画美術館 講堂

■内 容：

1. 報告事項

(1) 2023年度後半期の事業の振り返りと総括について

・ 展覧会事業

「版画家たちの世界旅行 古代エジプトから近未来都市まで」展 (資料1)

・ 普及事業

(資料2)

(2) 2023年度前期の美術資料の収集状況について

(資料3)

(3) 2023年度第25回「ゆうゆう版画美術館まつり」実施報告

(資料4)

(4) 芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアムの進捗状況について

(資料5)

2. 審議事項

(1) 2024年度事業計画について

・ 展示事業

(資料6)

・ 普及事業

(資料7)

3. その他

■出席委員： 諸川 春樹、三上 豊、降旗 千賀子、生嶋 順理、吉田和夫、
高橋 健志、三竹 和行（敬称略）

■出席者： 文化スポーツ振興部 篠崎部長、大久保館長、星野副館長、
和南城係長（学芸係）、渡邊係長（普及係）、
安田係長（管理係）、西（管理係・書記）

■会議録（要約）

○開会の宣言（国際版画美術館副館長）

○町田市文化スポーツ振興部長挨拶

○館長挨拶（国際版画美術館館長）

1. 報告事項

(1) 2023年度後半期の事業の振り返りと総括について

○資料1、2について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

「版画家たちの世界旅行」展について、小中学生が1,000名ほど来館した、とのことだが、観覧に来た小学生、中学生は、子どもたちだけで来る場合もあったか。

事務局

中学生の場合は、お子さんだけで来館することもあったかと思う。

委員

学校の先生が引率してくることはあったか。

事務局

この展覧会に関しては、夏休み期間だったこともあり、学校の先生の引率はなかった。

委員

これからも、こういった形の子ども向けのイベントを続けることを期待していいか。

事務局

展覧会自体が子ども向けでない場合でも、お子さん向けのイベントや、親子鑑賞イベントや、ジュニアガイドを作成するなど、子どもたちが楽しめる企画を続けていければと思う。

委員

美術館に行くことの敷居を低くする意味でも、ぜひ続けてほしい。

委員

「版画家たちの世界旅行」展の巖谷國士氏の記念講演会について、どのような年齢層の方が多かったか。

事務局

30代、40代以上の方が多かったように思う。

委員

オンラインプレスリリースによるお知らせを使ったとあるが、オンラインプレスリリースはいつから行っているか。

事務局

昨年度（2022年度）から行っている。以前は紙のプレスリリースを郵送していたが、オンラインプレスリリースでは、預けた内容を会員（マスコミの方など）に送っていただくサービスがあり、郵送で送るよりも幅広い方に情報が届く。今まで来なかったようなネット関連の広報などからも取材が来るようになり、効果があると思っている。

委員

何件ぐらい掲載があったか。

事務局

すぐにはわからない。

委員

件数など、継続的に見ていくと、非常に参考になると思う。

委員

ジュニアガイドに載せたクイズなどは、学芸員が作成したのか。

事務局

そうである。絵をよく見てもらう、ということを目標に作成した。実際に来て、作品を観てみないと解けないようなものなど、結構細かいものも用意した。

委員

版画美術館が抱えている課題として二つあると思う。一つは認知を広げるための工夫について。町田市立国際版画美術館の認知度も上がってきたとはいえ、まだ十分に伝わっていないと思うので、他の教育委員会や、例えば各自治体にも教育の組織があるので、それらとうまくつながると、子どもたちにも版画美術館の認知を広

げられると思う。また、認知度を上げる方法として、ホームページや Instagram などの SNS などの活用もあげられる。

もう一つの課題は、版画美術館に来るのが大変である、ということ。来てみるととてもいいところだが、そのための足をどのように確保するか、についてである。これら 2 点について、どのように考えているか。

事務局

現在行っている、小中学校作品展は教育委員会との共催になっており、また、夏休みにも先生方の研修会のお手伝いをしているなど、先生方との交流の場や機会を持つことができていると考えている。学校に対しては、適宜、情報共有などをしており、熱心な先生からは、個別に講座のチラシ等、児童・生徒数の分欲しい、など、ご要望をいただいたりもする。美術館のホームページについては、子ども向けのページを作っている。

美術館への来館時の足を提供することについては、今のところ計画はないが、今後、検討していければと思っている。

委員

市内だけでなく、市外の教育機関へも広報することが必要かと思う。来館時の足については、町田駅からのシャトルバスなど、夏休み期間中だけ増やす、などがあるかもしれないと思う。

委員

「版画家たちの世界旅行」展について、以前扱ったテーマを新しく展開して開催されたということであるが、最近、旅をテーマにした展示が他の美術館でもちょこちょこ開催されていると感じている。版画美術館で、これからも、このテーマについて、違う形で展開させていくことが望ましいと思う。

委員

展覧会を担当する学芸員と、普及担当の学芸員で、連携はどのようにしているか。

事務局

版画美術館は、館内に工房があり、実技のわかる学芸員もおり、たとえば、昨年度の「版画×写真」展では、写真をテーマにして展覧会だったことから、普及係で写真製版を行っている作家さんと呼んで、作品をつくっていただいたり、刷りの実演をしていただいた。2024年4月には、学芸係に美術館教育の専門の学芸員が入る予定である。今まで、実技関係の鑑賞教育というものを普及係が行い、それと学芸係が協力して行ってきたが、その両者を繋ぐ意味で、当館ならではの美術館教育というものを、新しく入る学芸員が模索して、展開していってくれと考えている。子ども向け、大人向け、いろいろあるが、美術館に来る楽しみ、展覧会を観る

楽しみ、そういったものを、担当の学芸員を入れることで、強化していければと思っている。

委員

これから先、もっと展覧会に関する普及活動はもっと増えると思うし、要望も厚くなっていくと思うので、そこに、そういった繋ぐ方が入るといことは重要なことと思い、期待している。

委員

目黒区美術館での展示に貸し出した版画の道具について、評判がよかったと聞く。版画美術館は、版画に関する専門的なしつらえと道具を持っていることが特徴となっていると思うので、そういったものを、今後も他の美術館にセットにして貸し出すなど、版画美術館の普及事業のポイントとして考えていければと思う。

委員

まだ実施されていないが、普及事業のバターとコーラを使ったキッチンリトグラフについて、講座の際、材料を舐めたり、飲んだりの許容範囲についてはどのように考えているか。

事務局

短い時間での講座のため、退屈しないうちに終わるかと思うが、講座で使用する材料については、口に入れても大丈夫なものにを用意する。また、学年も3年生以上が対象となっているので、特に危険はないと考えている。

委員

展示の際の作品の写真撮影について、どの程度許可しているか。

事務局

著作権があるものについては撮影をお断りしているが、そうでないもの場合は、マナーの問題になるかと思う。アンケートには「カシャカシャとうるさい」といったご意見もある。また、ここだけは撮っていいです、とした場合にも、撮影可能の表示がわかりにくかったために、撮影してはいけない作品を撮ってしまって、看視員が注意して、トラブルになることなどもあった。会場内の撮影については、美術館として頭の痛い問題である。こちらの掲示の仕方もあるし、来館者のマナーの問題でもある。撮影の音が気になる・気にならない、の問題でもある。これに関しては、もうしばらく、検討していきたいと思う。

委員

海外の美術館でリニューアルしたところなどを観に行くと、非常に積極的に撮影について取り組んでいるところもある。今は、観に来る人も、ほとんどの方がスマ

ホを持っている。マナーの問題など、たくさん検討することはあるとは思いますが、積極的に「取りましょう」という場所や、学芸員が「ここを撮ると面白いですよ」というスポットを設けたり、あるいは、撮影スポットのようなものを作ってしまったら、分かりやすく撮影できる場所を積極的に用意すると、意外と今の人たちはそういったもの楽しみに観に来る人もいて、そこから興味がつながることもあるかもしれないと思う。

私が訪れた美術館で、版画美術館のエントランスのような大きな吹き抜けの空間に、展示している作品の一部を大きくプロジェクションしているところがあり、それを背景に写真を撮るのがとても素敵だった。印刷物やバナーを作るとなると大変だが、プロジェクションというのは、こういう使い方もできるのだな、うまい使い方があるな、と思った。版画美術館も入ってきた時に、素晴らしい建物だと感じるので、そういった部分をうまく利用できるといいと思う。

事務局

版画美術館では、展覧会の際、階段脇の壁に、絵やタイトルを切りぬいたものを貼ったり、正面玄関の外の柱のところにバナーを巻いたものを用意したりしており、そこで写真を撮っていく方も多い。予算があれば、今後もやりたいと思う。

委員

キッチンリトグラフの企画は面白い。版の原理から、日常のものを使って実は創作できる、というアイディアは、すごく大事だと思う。ぜひ、今後も取り上げてほしい。

(2) 2023年度前期の美術資料の収集状況について

○資料3について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

なし

(3) 2023年度第25回「ゆうゆう版画美術館まつり」実施報告

○資料4について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

4つのイベントを一緒に行い、スタンプラリーも行ったとのことだが、これは来年度も行う予定か。

事務局

まだ、各担当部署との調整ができてはいないが、町田駅周辺全体が盛り上がり、相乗効果も期待できるので、同時開催ができればと考えている。

委員

こういった、他のイベントとの協働はすごくいいと思う。同時開催するイベントに、ぜひ、図書館も入れてほしい。作品を図書館での展示につなげたり、そういったこともできるのではないかと思う。

(4) 芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアムの進捗状況について

○資料5について事務局から説明

○委員からのご意見、ご質問等

委員

「中止」ということだが、これは、(仮称)国際工芸美術館の建設そのものが、白紙撤回となる、ということとは違うのか。

事務局

整備工事に関わるプロポーザルが中止、という意味である。

委員

(仮称)国際工芸美術館については、あくまでも作ることは変更がなく、そのスケジュールが未定になった、ということか。

事務局

今回、整備工事をするにあたって、プロポーザルという手法を使って選定を行う予定であったが、そのプロポーザルが中止になった、という意味である。

委員

整備工事のプロポーザルについて、今回、事業者の手が上がらなかったということは、スケジュールが先に延びてしまい、あまりいいことではないと思う。

プロポーザルにかけるのであれば、ある程度の見通しをたてて行わないといけないと思う。プロポーザルが中止となった原因として、資料には工費や材料費が値上がりしたため、とあったが、ある程度、事前に事業者と情報交換をしながら着地した方がよかったのではないかと思う。

事務局

プロポーザルが中止となったことを踏まえて、客観的な視点で設計図書を検証するコンストラクションマネジメントを取り入れて、適切な工事費、工期、工法等の評価、見直しをやっていきたい。

部長

最初は、価格競争だけで入札を行おうとしたが、予算時から物価が高騰しており不調となった。そこで、コンストラクションマネジメントを少しいれながら、プロポーザルなど工夫して行ったが、物価高騰が止まらなかったことや、働き方改革に伴って人工の確保が難しくなったことなどにより、事業者が手を上げられなかった。そこで、今度は、本格的にコンストラクションマネジメントを取り入れて、今の設計を客観的に評価したうえで、もう一度事業者選定をしようということになり、スケジュールを見直すことになった。

委員

そうなると、設計の図面に立ち戻って見直さなければならない、ということもあると考えていいか。

部長

実施設計は済んでいるため、基本的な部分は変わらない。どういうものを使うかなど、細かいところは、見直しをしていこうと考えている。

2. 審議事項

(1) 2024年度事業計画について

○資料6及び7について事務局から説明。

○委員からのご意見、ご質問等

委員

展覧会事業の休止時期について、本来は、工事の影響で2024年10月から休止する予定かだったかと思うが、スケジュールが延びたということで、工事開始はいつ頃からの予定になったか。

事務局

正式には決まっていないが、コンストラクションマネジメントを入れるとなると、そのための期間が必要になる。そうなると1年くらいは、延びるのではないかと思います。

委員

版画美術館のリニューアルオープンは、2027年の後半くらいと聞いていたが、それがいつ頃に延びるか。

事務局

コンストラクションマネジメントを入れるとなると、1年くらい延びると考えられる。

委員

そうなる、2028年12月頃に予定が伸びる、と考えていいか。

事務局

その予定である。

委員

版画美術館の地震の対策はどうなっているか。建築物の耐震工事を行う予定はあるか。また、この美術館は、電波がつながりにくく、ネット環境が悪い。今は、作品の説明を携帯で行えるような機能もでてきているので、どうせ改修するのであれば、そういったところから変えていかないと近代化しないのではないか。「国際」と名のつく美術館なのに、英語の表記もほとんどない。版画に特化したユニークな美術館であり、そういった意味では世界に発信していける。英語の掲示はともかくとして、Wi-Fiの機能くらいは整備しておかないといけないかと思う。

事務局

地震対策について、版画美術館は建ててから年数は経っているものの、非木造であり、耐震化工事をする計画はない。

Wi-Fiについては、指定管理者など新しい運営になった際は、整備していきたいと考えている。

委員

小中学校作品展について、来年度（2024年度）は美術館で開催できるのか。

事務局

2024年度（2025年1月開催）については、美術館で開催できると考えている。それ以降の予定については、来月の小中学校作品展運営委員会で情報提供をしたいと考えている。

委員

銅版画一日教室や木版画一日教室など、版画美術館は工房があつて設備もとてもよいことから、学校の美術の教員の関心も高い。また、ゆうゆう版画まつりの「わけあり図録」のワゴンセールについて、教員たちも興味を持っていた。

委員

小中学校作品展で、小学校の書写の展示はあるが、中学校の書写の展示がない。中学校でも書写の作品がないわけではないので、書写の展示があるといいのでは、と思う。検討していただきたい。

委員

町田市立国際版画美術館という名称について、日本語表記には「国際」があるが、欧文表記には「国際」が入っていない（欧文表記：Machida City Museum of Graphic Arts）。この「国際」という名称について、いろいろな国の作品を集めるのか、それとも集まった作品を国際的に発信していくということなのか、いろいろな意味合いがあるかと思うが、今回、改修工事があるこの機会に、もう一度、改めて、欧文表記について見直すのはどうか。検討いただければと思う。

委員

ここ数年で、美術館は大きく変わる時代にあると思う。町田市立国際版画美術館は、1987年の開館だが、1980年代後半から1990年代は、美術館が一番多く開館した時期であったかと思う。その時期に入った学芸員が今、入れ替わる時期にある。そうした中で、版画美術館には学芸員が新しく入り、代替わりができていいことだと思う。今は、90年代のバブル期のような展覧会はできないし、新しい考え方も打ち出していかななくてはいけない。ICOM(国際博物館会議)の計画も大きく変わってきており、包摂的という言葉が入ったり、インクルーシブ、ダイバーシティなど、いろいろなことをやらなければいけない時期にある。今後、美術館がやらなければいけないことが、もっと増えてくる。そうすると普及の担当は、大変になってくると思う。あまりにも範囲が広くなりすぎてしまって、どこの美術館も苦勞している、というのが現状かと思う。版画美術館には、こういったことを含めて、計画をしてほしいと思う。

会長

審議内容について、承認でよいか。

(「異議なし」の声あり)

会長

審議内容を承認とする。

3. その他

会長

スマホのカメラでの撮影音について、版画美術館ではそれほど気になったことはないが、他の美術館で気になったことはあった。音がしないようなアプリもあるようなので、そういったものを使ってもらうなど、考えてほしい。

資料に、館内の椅子の数が少ないというご意見があったが、それほど少ないようには感じない。

○閉会の宣言（会長）

—以上—